

データ入力項目の定義および注意事項

- ・ 冷汗ありとは「皮膚が冷たく湿っている」状態とし、冷汗の有無は **primary survey** において、初療担当医 2 人が独立して所見をとる。この際、観察者の一方は体の右側、一方は左側をそれぞれ顔面、前胸部、前腕部、手掌の 4 箇所において評価する。冷汗の程度は問わないこととし、2 人の観察者が上記 4 箇所の観察部位において主観的に左右何れかの冷汗の有無を判断し別々に記載する。なお、左右何れを観察するかは患者搬入前に決定しておく。
- ・ **Intervention** とは出血性ショックあるいは閉塞性ショックを離脱するための侵襲的処置/手術としての開胸または開腹止血術、経カテーテル的動脈塞栓術、骨盤骨折に対する創外固定または後腹膜腔ガーゼパッキング、外出血に対する止血術、胸腔ドレナージ、心嚢穿刺および心膜開窓術の 8 つと定義する。これらの **intervention** は **primary survey** における「蘇生」としての位置付けであり、血管造影のみや試験開腹術、陽圧換気開始時における胸腔ドレーンの挿入等は含めない。なお、これらの **intervention** は蘇生のためと位置付けられる場合、CT 撮影後に施行されたものも含める。
- ・ 項目の定義や記載法については、日本外傷データバンク患者登録項目に準ずる。
- ・ 通し番号とは各施設における **serial number** とし、症例毎に 1 から順に番号を振る。
- ・ 受傷機転に関して、鈍的外傷には、交通事故、墜落・転落、機械による外傷、落下物・爆発物等による外傷、挟圧、鉄道関連、スポーツ外傷等が含まれる。鋭的外傷には、刺創、切創、銃創、杵創等が含まれる。
- ・ 来院時所見の収縮期血圧で心拍あるも血圧測定不能時は「40」とする。
- ・ **Base excess** は、小数点以下第 1 位まで記載する。
- ・ 血中乳酸値は、小数点以下第 1 位まで記載し、単位は **mmol/L** とする（測定値が **mg/dL** の場合は 9 で除する）。
- ・ 脊髄損傷が「あり」とは、頸髄あるいは上位胸髄（第 8 胸髄）までの脊髄損傷で、身体所見あるいは CT や MRI 等の画像所見により診断されたものとする。